

体験活動を活かした 語彙力向上の授業づくり

～国語科「にたいみのことば、はんたいの
いみのことば」の実践を通して～

佐野市立赤見小学校
須田 祐介



実践にあたって

本学級の児童の語彙力の課題

- ・自分の気持ちや考え、経験を伝えることが難しい
- ・「長い」「広い」と表現するものであっても、全て「大きい」などと同じ表現になってしまう
- ・文章の中で、言葉を置き換える経験が少ない
- ・類義語・対義語が、「暗記」になりやすい。

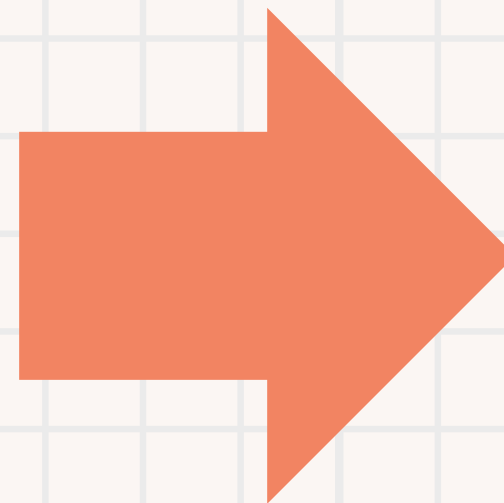


実践にあたって

なぜ、「具体的な体験活動」が大切なのか
言葉は「意味」と体験が結びつくことで記憶に定着する。



暗記のみ



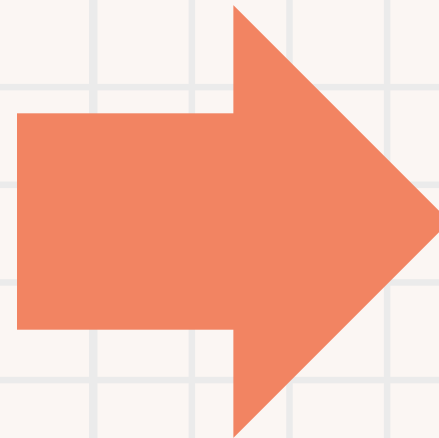
理解できない

実践にあたって

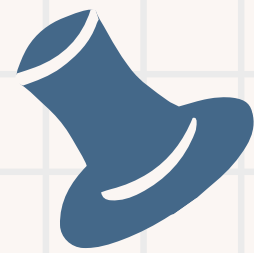
なぜ、「具体的な体験活動」が大切なのか
言葉は「意味」と体験が結びつくことで記憶に定着する。



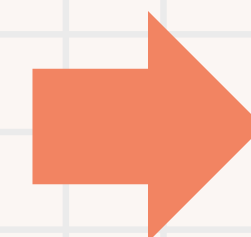
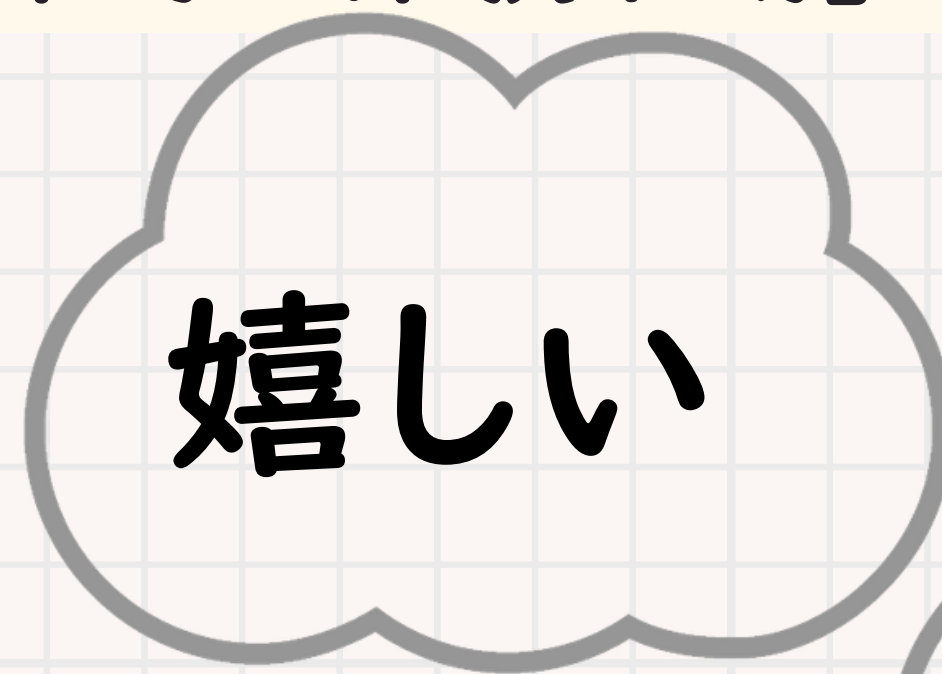
体験活動



記憶に定着



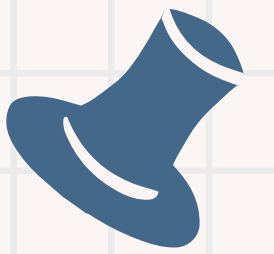
なぜ、「具体的な体験活動」が大切なのか



使い分けが必要



なぜ、「具体的な体験活動」が大切なのか



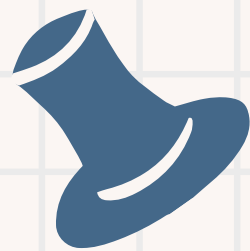
遊園地で
わくわく

＝

100点で
嬉しい

＝

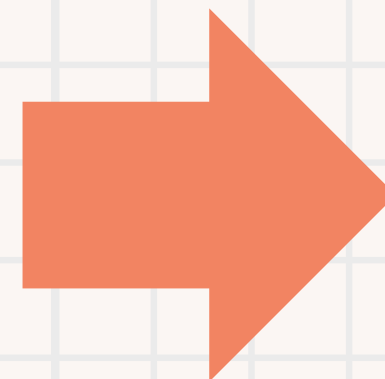
友だちと遊んで
楽しい



なぜ、「具体的な体験活動」が大切なのか



「知っているだけ」



「使える言葉」

実践にあたって

学習指導要領における位置付け 国語科の目標

自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。

言語事項

(1)イ 慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意すること。

ウ 抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること。



- ・語彙を豊かにする
- ・言葉の感覚を育てる
- ・語の「意味」「働き」「使い方」を捉える力

授業内容

授業のねらい

体験を通して語の意味を身体感覚で捉える

その感覚を言葉に置き換えることで語彙を広げる

対義語を「反対の意味の言葉」としてだけでなく、状況の違いを表す言葉として理解する。

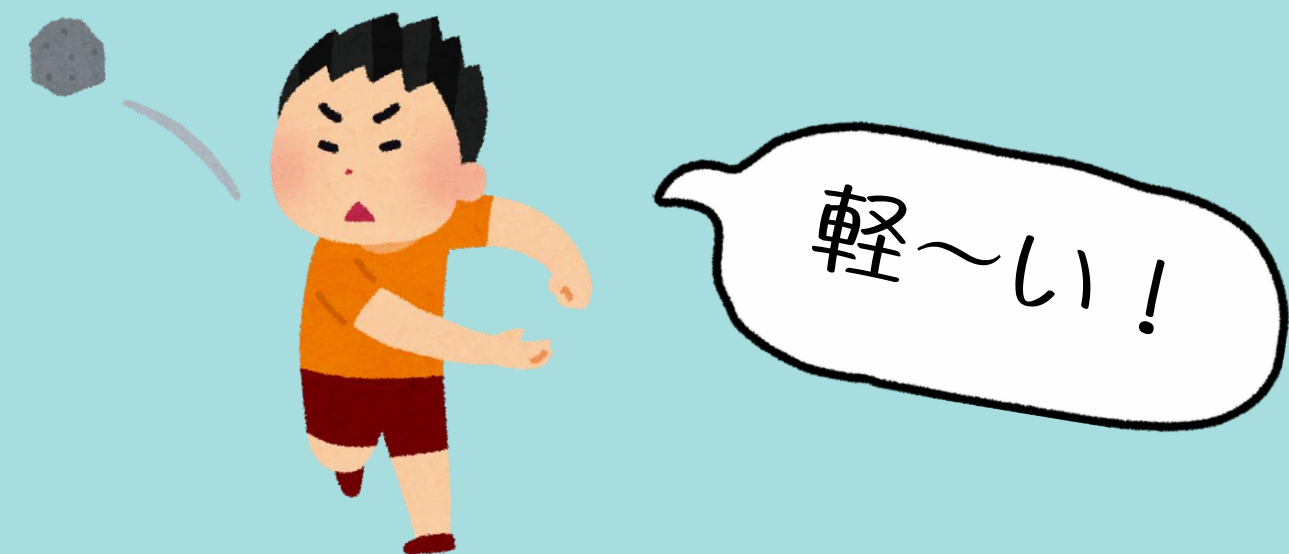
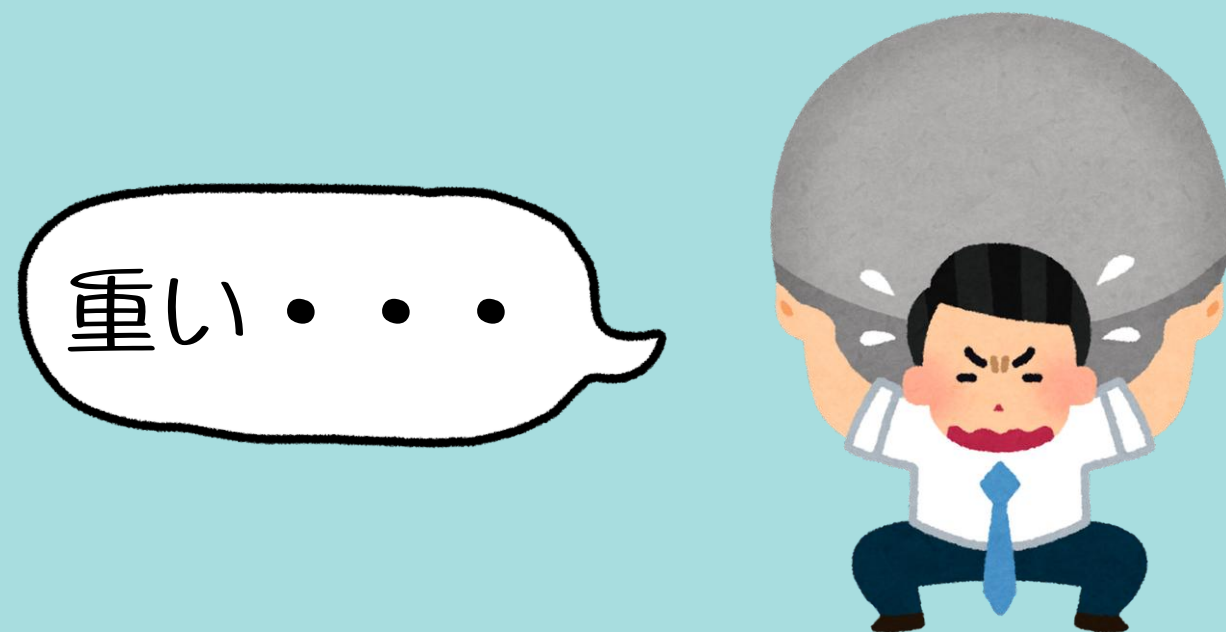
子どもが自分の生活経験と語彙を結びつけられるようにする



授業内容

Ⅰ、体験活動（動作・感覚を伴う活動）

- ・びっくり箱体験による類義語の発見
- ・動作化による対義語の理解



授業実践



重い？

軽い？

授業実践

重い？

軽い？



授業実践



長い？

短い？

授業実践

勝つ？

負ける？



授業内容

2、気付きの言語化

- ・体験で気付いたことを言語化
- ・それぞれの言葉の意味が実感として結びつく

重いと腕が
下がるよ

軽いとすぐ
もてるね

綿はふわふわ
やわらかい

石は、触ると
硬い

授業内容

3、類義語・対義語の発見

「はんたいことばのひみつをみつけよう」

冬は寒い ↔ 夏は暑い

氷は冷たい ↔ 火は熱い

うすい本 ↔ 厚い本

これとこれが
反対言葉だね

一つの言葉に反対
言葉がたくさん
ある！

授業実践

ルール作り
をしよう



5、学びの共有と深化

- ・通常学級の児童と一緒にかるた大会を実施
- ・遊びの中で「使える語彙」へ



授業内容

カルタ大会の様子



子供の変容と成果

- ・言葉に対する興味・意欲の向上
- ・言葉の意味を身体感覚で捉えられた
- ・ことばと体験が結びついた。
- ・単なる暗記でなく、意味の幅が広がった
- ・学び合いが生まれた。
- ・カルタ大会を通して、自信がついた。

今後の課題

- ・対義語に比べ、類義語があまり出なかった。
→言葉の置き換え練習等を行う。
- ・言語化が苦手な児童への支援の工夫。
- ・他教科との連携で語彙を広げる可能性。
- ・体験→気付き→言語化→活用の循環が
語彙力を伸ばす授業づくりの鍵



ご清聴ありがとうございました。